

学年	単元名	児童	場所	指導者
2年	「ひきざん」 (教育出版 2年上)	18名	2年3組教室	村上 慶亮

1 単元について

(1) 本単元で育てたい資質・能力

【知識・技能】

- ・2位数の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにして理解し、それらの筆算が確実にできること。新A(2)ア(ア)
- ・加法と減法との相互関係について理解すること。新A(2)ア(エ)

【思考力・判断力・表現力等】

- ・数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。新A(2)イ(ア)

【学びに向かう力・人間性等】

- ・減法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理の良さに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養うこと。

(2) 学習内容・題材について

【学習指導要領の位置づけ】

A 数と計算

(2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。

ア 2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできていることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

これまでに児童は、第1学年において、残りや差を求めるために「十何－1位数で繰り下がりのある計算」や「何十－何十の計算」、「何十何－1位数で繰り下がりのない計算」を学習している。

また、十進位取り記数法をもとに、120程度までの数の表し方やその意味について学習している。

さらに、前単元においては、2位数の加法の計算やその筆算の仕方、加法の交換法則・結合法則について学習している。

本単元では、これらの既習事項をもとに、減法が用いられる場面の理解や計算方法についての理解を深め、2位数の減法の計算ができるようにするとともに、それらの筆算の仕方や、加法と減法との相互関係について理解することができるよう指導を行っていく。

(3) 単元の評価規準（評価規準に関わる参考資料を基に作成）

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
① 2 位数の減法の計算の仕方を考えたり、正確に計算したりしようとしている。	① 2 位数の減法の計算の仕方を、図や式等を用いて考えている。	① 2 位数の減法の計算が正確にできる。	① 2 位数の減法の筆算の仕方について理解している。 ② 加法と減法の相互関係について理解している。

(4) 児童について（これまでの学習内容についての分析（主に既習について））

省略

(5) 単元の指導について

上記の単元の指導内容や児童の実態を踏まえて、本単元では、ブロック操作を繰り返し行わせることで、2 位数の表し方や減法の意味、計算手順を体験的に捉えながら考えたり、説明したりする算数的活動を行っていく。

単元の導入場面では、繰り下がりのない 2 位数の減法の計算の仕方を、ブロックを用いて考えたり、説明したりする活動を行うことで、位ごとの減法で成り立っていることを確認する。

また、繰り下がりのある 2 位数同士の減法の学習場面においては、位ごとに計算すれば良いことや十進位取り記数法の考え方を基に、十の位から 1 を繰り下げれば一の位の計算ができるということに気づかせる。

さらに、2 位数の減法の筆算の習熟場面では、できるだけ多くの問題を解かせ、計算の手順を簡単に説明させることで、計算方法の確実な習得することができるよう指導していく。

2 単元の指導計画

時	学習活動	㊦問題、㊦課題、㊦まとめ、㊦振り返り ・具体的内容 ※留意点	□評価規準【評価方法】 ⇒低位の子への手立て
①	繰り下がりのない2位数-2位数の計算方法を考える。	㊦たくやさんは折り紙を38枚持っていました。このうち15枚使いました。のこりは何枚でしょうか。 ㊦計算の仕方を考えよう。 ・ブロックで考える。 ・数を分けて考える。 ※10のまとまりとばらに着目させる。 ㊦一の位同士、十の位同士で計算する。 ㊦位同士で計算すると1年生の計算でできる。	関繰り下がりのない2位数-2位数の計算方法を考えようとしている。 考繰り下がりのない2位数-2位数の計算方法を、既習事項をもとに考えている。 ⇒ブロック操作を通して、位ごとに計算していることに気づかせる。
②	繰り下がりのない2位数-2位数の筆算の仕方がわかる。	㊦たくやさんは折り紙を38枚もっていました。このうち15枚使いました。のこりは何枚でしょうか。 ・筆算の式を立て、「筆算」という用語をおさえる。 ㊦筆算で計算しよう。 ・位を縦にそろえて書く。 ・一の位の計算をする。 ・十の位の計算をする。 ※ブロック操作も並行して行わせる。 ㊦位を縦に揃えて書くのを気を付ける。	知繰り下がりのない2位数-2位数の筆算の仕方を理解している。 ⇒前時のまとめやたし算の学習経験を想起させる。また、位ごとに色分けして考えさせる。
③	繰り下がりのない2位数-1位数の筆算の仕方がわかる。	㊦どちらが正しいかな？ $\begin{array}{r} 47 \\ -3 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 47 \\ -3 \\ \hline \end{array}$ ㊦筆算の書き方を考えよう。 ・3が書いている場所に注目させる ・ブロックを用いて答えを確かめる。 ㊦位を揃えて書く。 ㊦筆算の書き方はたし算のときと同じ。	知繰り下がりのない2位数-1位数の筆算の仕方を理解している。 ⇒ブロックを用いて、十進位取り記数法について確認したり、位ごとに色分けして計算させたりする。
④	繰り下がりのない2位数までの減法の筆算ができる。	㊦筆算の練習をしよう。 ・筆算の手順について確認する。 ・必要に応じてブロックを用いて答えを確かめる。 ㊦十の位から計算してしまうことがあったから、一の位から計算できるように気をつける。	技繰り下がりのない2位数までの減法の筆算が正確にできる。 ⇒ブロックを用いて答えを確かめたり、位ごとに色分けして計算させたりする。

<p>⑤ (本時)</p>	<p>2 位数-2 位数で繰り下がりのある減法の筆算の仕方がわかる。</p>	<p>㊦ かずやさんは折り紙を 3 4 枚持っていました。このうち 1 8 枚使いました。のこりは何枚でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立式し、引き算であることを確かめる。 ・筆算で一の位が引けないことを確認する。 <p>㊧ 計算の仕方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを使って考える。 ・数を分けて考える ・筆算で考える。 ・筆算の書き方を全体で確認する。 <p>㊨ 一の位が引けないときは、十の位から 1 繰り下げる。</p> <p>㊩ 繰り下げたことがわかるように印をつけるのを忘れないようにする。</p>	<p>知 繰り下がりのある 2 位数-2 位数の筆算の仕方を理解している。</p> <p>⇒ ブロック操作を通して、一の位で引けない分を十の位から借りてくればよいことに気づかせる。</p>
<p>⑥ ⑦ ⑧</p>	<p>2 位数までの繰り下がりのある減法の筆算ができる。</p>	<p>㊪ 繰り下がりのある筆算の練習をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算の手順や繰り下がりについて確認する。 ・必要に応じてブロックを用いて答えを確かめる。 <p>㊫ 一の位が引けないのに反対に引いてしまうことがあるので気をつける。</p>	<p>技 繰り下がりのある 2 位数までの減法の筆算が正確にできる。</p> <p>⇒ 位ごとに色分けして計算させたり、補助数字を筆算式の上にかかせたりする。</p>
<p>⑨</p>	<p>加法と減法の相互関係がわかる。</p>	<p>㊬ かごにボールが 2 3 こあります。7 こ取り出すと、のこりは何こになるでしょうか。また、取り出した 7 このボールをかごに戻すと、何こになるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ計算して答えを求めさせる。 <p>㊭ どんな秘密があるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひかれる数」「ひく数」「答え」という言葉を使って説明することを確認する。 ※ 共通点、相違点に着目させる。 <p>㊮ ひき算の答えにひく数をたすと、ひかれる数になる。</p> <p>㊯ たし算とひき算の関係を使って、確かめをしていきたい。</p>	<p>知 加法と減法は互いに逆の関係になっているということを理解している。</p> <p>⇒ ブロック操作を通して、7 を引いたり足したりしていることに気づかせる。</p>

⑩	身の回りの事象を数理的に捉え、減法の学習を活用して問題を解決することができる。	<p>㊦ 西町と東町の文房具店で、同じ品物が違う値段で売られています。西町の店では、どの品物も値札から15円引きになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひき算を使えば比べられることを確認する。 <p>㊧ ひき算をつかって説明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートを例に答えを考える。 ・教科書 P41 のゆみさんの考えを用いて説明できるようにする。 ・他の品物について考え、説明する。 <p>㊨ 買い物のときに引き算が使えることがわかった。</p>	<p>関 減法の学習を日常生活に生かそうとしている。</p> <p>考 どちらの店で買う方が安くなるかを言葉や式を使って説明している。</p> <p>⇒ ゆみさんの説明を型として提示し、そこに当てはめながら説明できるようにする。</p>
⑪	学習内容の理解の確認とその定着を図る。	<p>㊩ 練習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめをする。 <p>㊪ はじめは、繰り下がりのある筆算が難しかったけど、繰り下がった数をきちんと書けば1年生のときと同じになるから簡単になった。</p> <p>ひき算の筆算はたし算の筆算と似ているところがたくさんあると思った。</p>	<p>関 学習したことや学び方について振り返り、減法の良さに気付いたり、生活や学習に活用したりしようとしている。</p> <p>⇒ 振り返りシートをもとに、学習してきたことや自らの成長に気づかせる。</p>

3 本時の学習

(1) 本時の目標

2位数－2位数で繰り下がりのある減法計算のしかたを理解している。【知識・理解】

(2) 本時の評価

◇評価規準の具体（評価方法～練習問題（プリント）【知識・理解】）

繰り下がりのある筆算のしかたを理解している。【知識・理解】

(3) 本時の展開（11時間扱い 5時間目）

	学習活動	形態	※留意点 ◇評価規準【評価方法】
つかむ7分	<p>1. 問題を捉える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>かずやさんは、おり紙を34まいもっていました。このうち、18まいつかいました。 のこりは、なんまいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・立式し、筆算を書く。 式 $34 - 18$ (筆算) $\begin{array}{r} 34 \\ - 18 \\ \hline \end{array}$ ・前時との違いを見つけ、見通しをもつ。 (違い) <u>一の位(4－8)の計算ができない。</u> (見通し) 8よりも数を大きくする。 	全体	
	<p>2. 課題を立てる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>けいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の「目指す姿」を示す。 ☆一の位がひけない計算のしかたがわかる。 ・見通しを再度確認する 	個人 全体	<p>※筆算のしかたを確認する。 ①位を縦にそろえて書く ②一の位を計算する ③十の位を計算する (既習内容)</p> <p>研究内容 I 目指す姿の明確化 既習である筆算を書くことで、一の位の計算ができないことを明確にする。</p>
考える5分	<p>4. ブロックを使って考える (ブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めのブロックの置き方をそろえる。 ・ワークシートを使用する。 	個人	<p>研究内容 II 自分の考えをもたせる工夫 始めをそろえたり、ワークシートを使用したりして、解決方法を焦点化する。</p>

	<p>(十の位) (十の位) (一の位)</p> <p>(一の位)</p> <p>10のまとまりを一の位にうつす。</p>	<p>※ブロックの置き方を下記のように統一させる。</p> <p>(十の位) (一の位)</p>
<p>学 び 合 う 1 8 分</p>	<p>5. 全体で考える (ブロック)</p> <p>「4から8はひけないので、10のまとまりを一の位にうつす。」</p> <p style="text-align: center;">↓ 言い換えると…</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>十の位から1繰り下げる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで確認する。 <p>話し方 「4から8はひけないので…」</p> <p>(筆算のしかた)</p> $ \begin{array}{r} 214 \\ \cancel{2} \cancel{1} 4 \leftarrow \text{印を書き忘れないようにする} \\ - 18 \\ \hline 16 \end{array} $ <ul style="list-style-type: none"> ・4から8はひけないので、<u>十の位から1繰り下げ</u>、4を14にする。 ・1繰り下げたので、3を2にする <p>「一の位は、14-8で6になる。十の位は、2-1で1になる。答えは16。」</p>	<p>全体ペア</p> <p>※ブロック操作の段階で、「<u>1繰り下げる</u>」という言葉をおさえさせる。</p> <p>※ブロックでは、1繰り下げて4を14にすることだけを扱い、計算は行わない。(その後の計算は、既習であり、1繰り下げることに焦点化させるため)</p> <p>研究内容Ⅱ 話し合いを促すための工夫</p> <p>ブロックの動きに関わる説明の際には、児童からの考えを全体で確認する。その後、ペアで復唱させることで、言葉の言い換えや繰り下がりのある概念の理解を促す。</p> <p>※教師側は、「4から8はひけないので…」を徹底する</p> <p>研究内容Ⅱ 話し合いを促すための工夫</p> <p>異なる答えや計算方法を提示して揺さぶるを通し、「どこが違うのだろう」と主体的に考えさせ、理解を深めることができるようにする。</p> <p>※繰り下がりのある筆算のしかたを確認すると同時に、教師側でブロック操作も並行して行う。</p>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>7. 計算のしかたをまとめる</p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>一の位がひけないときは、十の位から1をくり下げる。</p> </div>	<p>全体</p> <p>※ブロックと筆算を照らし合わせて、再度、十の位から1を繰り下げることを確認する。</p>

生 か す 5 分	9. 練習問題を解く ・用意したプリントを解く	個人	◇繰り下がりのある2位数-2位数の筆算の仕方を理解している。 【練習問題 (プリント)】
振 り 返 る 5 分	10. 本時の学習を振り返る 以下の視点で振り返り, シートに記述する。 「できたこと, わかったこと」 「友達からの学び, よさ」 「これからのこと」	個人 全体	研究内容Ⅲ 振り返りシートの活用 学習の成果や自らの学びの過程について振り返ることで, 自らの成長や他者と学ぶ価値を自覚させ, 主体的に学習に取り組むことができるようにする。

(4) 板書計画

37ページ

しき $34 - 18$
こたえ 16まい

2 14
3 4
- 1 8
1 6

① -の位 4-8? ひけない。

② 8よりも大きしたら, けいさんができる。

けいさんのしかたをかみがえよう。

ブロック

10のまとまりを一の位にうつす。

十の位から1くり下げる

ひっさん

2 14
3 4
- 1 8
1 6

・1くり下げて14
・くり下げたので3を2にする

③ 一の位がひけないときは, 十の位から1をくり下げる。

④ プリント

(ワークシート)

+	-

(評価問題)

ひき算 ⑩ 名
● 2けた-2けた(くり下がりがり) 前

♣ 計算を しましょう。

①

5	2
-	2 5

②

6	3
-	4 8

③

4	4
-	1 9